



東京の会通信

No.303

2022年7月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会

〒101-0031 東京都千代田区
東神田1-3-4 KTビル3階

TEL：03-3866-8171
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100 円

東京新都心ライオンズクラブ 例会に参加

5月25日(水)にヒルトン東京で東京新都心ライオンズクラブの例会が開催されました。例会で骨髄バンクを知るために、ドナーと移植患者から話を聞きたいとオファーがあり、ドナーの木村さん(東京の会通信2022年1月号掲載ドナー)と、東京の会から移植患者の筆者(光江)、若木さん、大畑さん、泉さんが参加しました。



「東京新都心ライオンズクラブ」さんには、例年「3.11復興支援イベント」でお世話になって

おり、特に昨年と今年は「献血&ドナー登録会」として開催して頂き献血事業に大変ご尽力頂いております。例会では、今年の「献血&ドナー登録会」でお手伝い頂いた学生メンバーによる青年支部シンパ(映画「ライオンキング」のキャラクターの子供時代の名前)の結成式が行われました。

ライオンズクラブの皆さんと青年支部の皆さん35人の前で若木さん司会のもと、木村さんと筆者(光江)から体験談を語って骨髄移植とドナー登録の普及啓発を行い大変好評を得ることができました。特に若い青年支部の皆さんの前で体験談を語る機会を頂いたことには大変意義があったと感じています。直接、感想を聞く機会はありませんでしたが、青年支部の皆さんがドナー登録や献血事業に少しでも興味を持って頂き、普段の大学生活の中で友達、知人へと広がっていけば嬉しいなあと思いました。

(光江健太郎)

ライオンズさんとのご縁を大切に

今回5月25日に東京新都心ライオンズクラブの定例会に出席致しました。「ライオンズ」というと強いライオンのイメージからその名称がつけられたのかな?と思ったのですが、LIONSは“Liberty, Intelligence, Our Nation's Safety.”の略ということで、その理念から名付けられたものでした。

このご縁は4月10日のライオンズさんの献血事業で骨髄バンク登録を一緒にさせてもらうことでできたものです。骨髄バンクは、人の中に「誰かのために」という思いがあって初めて成り立つものだとは考えています。ライオンズの理念のour nationという考え方で非常に親和性があると思います。

この度ライオンズさんでは学生の会(青年支部シンパ)が設立されました。骨髄バンクへの登録は年齢制限もあり、若い人たちの協力が必要です。学生の方々がライオンズの理念に共鳴してくれるということは骨髄バンクへの広がりも望めますよね!

これからもライオンズさんとのご縁を大切にしながら、白血病で苦しむ人たちを1人でも減らせるように(理想はゼロ!)、様々な人たちと協力していくことが大切だなと改めて思いました。

(大畑幸司)



東京ドナー登録会予定(7月・8月)

7月9日(土) ぽっぽ町田 7月31日(日) 三軒茶屋駅前広場

日本青年会議所主催の献血&ドナー登録会 都内で開催

日本青年会議所（JC）では、2022年活動の柱に「献血」を位置づけ、各地で献血バスを招致しています。この献血会場で、骨髄バンクドナー登録も推進できないかと全国協議会へ相談があり、5月中の都内の献血会場へ東京の会から説明員を配置することになりました。その結果は以下のとおりです。

日程	時間	内容	場所	日本青年会議所主催	骨髄ドナー登録		献血	
					受付	登録	受付	献血
05/07 (土)	AM	わんぱく相撲墨田区大会	墨田区総合体育館	墨田区委員会	2	2	13	11
	PM	献血&併行ドナー登録	錦糸町駅南口駅前広場	日赤献血バス	8	6	33	28
05/21 (土)	終日	献血&併行ドナー登録	池袋駅東口前ロータリー	豊島区委員会	11	6	51	42
05/28 (土)	PM	献血&イベント会場ドナー登録活動	東京ビックサイト	インクルージョン委員会 ディスコ就職会社説明会	25	13	52	35
05/29 (日)	終日	わんぱく相撲板橋区大会	上板橋体育館	板橋区委員会	5	3	30	28

以下、5月7日を除く3回の登録会に説明員として参加した、松下倫子さんからの報告です。

【5/21 池袋駅東口前ロータリー】

東京の会から若木さん、中根さん、安藤さん、石崎友子さんと私の5名が参加しました。朝10時の開始時には既に雨が降り始めていて、JCのメンバーと一緒に若木さんと中根さんは駅前の横断歩道を渡って通る人々に献血の協力を呼び掛けて、雨の中テントの外に立ちました。

テントの中では、献血の受付を済ませた人に私が「ドナー登録の説明を聞きますか？」と声をかけ、安藤さんが説明を担当しました。午前中はびっくりするような土砂降りになってしまい、テントの中でも雨に濡れるほどで、来場者は少なく、登録もゼロでした。

午後からはJCのメンバーの方々が献血に来てくださり、中根さんが説明して、3人一緒に聞いていただけました。ひどかった雨が止んで来場者が増えてきた頃に石崎友子さんも参加して説明を担当し、献血終了後の登録の確認作業も私と一緒に残ってやりました。東京の会ではこの確認作業まで出来るようになっていた人が少ないので、今回石崎友子さんに経験してもらえて良かったです。

午前中ゼロで心配したドナー登録ですが、午後は説明を聞いてくださる人が増えて、20代～30代の若い世代の方々6名に登録していただき、安堵して登録会を終えることが出来ました。

【5/28 東京ビックサイト】

大学3年生を対象にした「キャリアスタ就活フォーラム」の広い会場内に献血バスを入れて、12時から17時まで行われました。骨髄バンクから鈴木さんが来られて、東京の会からは柴谷さん、竹崎さん、中根さん、宮本さんと私の5名が説明員として参加しました。

開催直前まで詳細が分からず、果たして就活に忙し

い学生が献血に協力してくれるのか不安でしたが、12時の開始時には午後から会社説明会やセミナーを予約しているけどそれまで時間があるからと献血してくれる学生が受付に並びました。

15時頃からは参加したいセミナーや必要な就活情報収集を終えたからと続々と献血に寄ってくれる学生が増え始めました。15時半には「今から受付して献血が終わるのは2時間後になります」と案内しなければならなくなり、諦めて帰る学生も出ました。

今年3年生の大学生は入学時からコロナ禍で大学での献血が実施出来なかったため、今回献血が初めてだという学生が多く、骨髄バンクについても初めて聞く機会になったようで、献血までの待ち時間に多くの学生に説明を聞いてもらうことが出来、成果の大きい登録会になりました。

【5/29 上板橋体育館】

JC主催の「わんぱく相撲」が開催された上板橋体育館の横に献血バスを停めて、献血併行ドナー登録会が行われました。骨髄バンクから末岡さんが来られて、東京の会からは佐藤さん、石崎保夫さんが参加し、午後からは私も加わりました。

体育館の中では、まわしの代わりに腰にさらしを巻いた小学生がマット状の土俵の上で熱戦を繰り広げていました。中には応援する親や兄弟も一家そろって相撲ファンかなと思うような体型のファミリーもいて、「あのおうちの炊飯器は一升炊きだろうな」と想像しました。コロナ禍を経て、またこうして子供達が取っ組み合って相撲が出来るようになって嬉しく思いました。

体育館は緑の多い公園の中にあり、「わんぱく相撲」に来た親子以外の人通りは少なく、献血会場としては不向きな場所でした。日赤職員が献血を行っていることをアナウンスしながら車で付近を回って、献血者を

集めることに苦労されていました。それでも残念ながら来場者は少なく、ドナー登録も登録者より説明員の人数の方が多いような結果でした。事前に会場の規模に合わせて参加説明員の人数を調整すべきだったと反省点です。

今回は採血が早く終了したので、東京の会のメン

バー3人そろって骨髓バンクの末岡さんに指導いただきながら確認作業を行いました。登録会自体の成果は少々さびしいものでしたが、登録会の締め確認作業のやり方を覚えたメンバーを増やすことが出来た良い機会にはなりました。

全国ボランティアの集いがWeb配信で開催

5月28日土曜日に、全国協議会主催で「全国骨髓バンクボランティアの集いin東京」がWeb配信で開催されました。司会是全国協議会副理事長で東京の会の代表代理でもある若木換さんでした。

最初にドナー経験者のお二人から体験談をお聞きしました。木村亮太さんは電機メーカー勤務で、学生時代に「半落ち」などの映画を見たことが登録のきっかけだったそうです。山中真さんは毎日放送のアナウンサーで、番組で池江璃花子さんの白血病発症の報道にかかわったことをきっかけにドナー登録したそうです。

木村さんは全身麻酔のリスクを考えて末梢血幹細胞採取を選択し、山中さんはどちらでもよいと医師に選択を任せて骨髓採取で提供しました。お二人とも痛みなど体への支障はほとんどなかったとのことでした。

続いて、再生不良性貧血で闘病中の5歳の男の子の父親である田中浩章さんが、闘病の実態とともに、ドナー登録の訴え、骨髓バンクの課題、患者支援活動等についてお話しされる動画が配信されました。お子さんには適合する骨髓ドナーが見つかっておらず、長期入院しながらドナーを待っています。父親として子供を助けたいという切実な思いが伝わってくるとともに、

ドナー登録の推進や提供しやすい環境・社会づくりにむけた課題と解決策等について、ビジネスコンサルタントというお仕事をされているだけに、とても分かりやすくプレゼンテーションされていました。

最後に、ドナーのお二人に田中さんを加えてパネルディスカッションが行われました。進行はプロであるアナウンサーの山中さんが務めました。田中さんのお話を聞いて、ドナーのお二人からは、闘病の大変な状況に衝撃を受けたとか、自分がした骨髓提供の意義を感じたとか、骨髓バンクの課題を知って自分に何ができるか考えたなどのコメントがありました。田中さんからは、骨髓バンクを広めるためにドナーができることとして骨髓提供経験を語ってほしいと話があり、ドナーから見た骨髓バンクの課題を含め、ディスカッションがさらに深まりました。

全体を通して、患者・ドナーそれぞれの思いと、骨髓バンクの課題が浮き彫りになり、ボランティアの一人として、この集いのテーマである「初心に帰る」という気持ちを強くし、モチベーションが上がる機会となりました。

(二見茂男)

全国協議会は加盟団体の会費を引き下げ募金箱を開放

全国協議会の理事会では、加盟団体に対し年額12万円の会費を1万2千円に引き下げること、各団体で設置している募金箱は管理監督を団体が責任を持つことで、加盟団体への寄付にできると決定しました。加盟団体の財政状況が大変厳しい状況を勘案し、また全国協議会の活動に加盟するメリットを各地団体に付与できる事を念頭に決議しました。

東京の会では以下の3か所に募金箱を設置し、この度回収し寄付とさせていただきます。改めて設置し

寄付してくれた方々に感謝申し上げます。

なお募金箱は全国協議会から無償で提供されます。皆さんもお近くの知り合いの店などで設置が可能な場所を探してください。東京の会の貴重な活動財源となるでしょう。よろしくお願いいたします。

- 神田味処「味彩」
- 港区白金台「ヴァンティアン美容室」
- 新橋「松崎内科クリニック」

東京の会 「7月、8月定例会」 のお知らせ

7月16日(土)、8月20日(土) 午後5時30分より

定例会の開催については新型コロナウィルスの感染拡大状況を考慮し、オンライン開催も取り入れて臨機応変に対応して参ります。

会場：こくみん共済coop東京会館
(旧：全労済東京会館) 3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分(新宿区西新宿7-20-8)

※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドウ」角入り右側

※9月定例会予定・2022年9月17日(土) 午後5時30分より

支えられた側から支える側へ

宮本ルミ子

2017年春から微熱と倦怠感が続くため、膠原病内科を受診していました。あらゆる検査をしましたが、原因不明で治療もないまま時間が過ぎました。夏のある日、血液内科を受診すると言われ、そのまま骨髓検査と輸血を受けました。「急性リンパ性白血病です。完治を目指すなら移植しかありません。」突然の告知でしたが、自分でも不思議なくらい冷静に受け止められました。「これでやっと治療ができる。」そう思い、主治医の言葉はすんと胸に落ちました。ただ家族はそうもいかず、夫は絶句して落ち着かない様子でうろうろ歩き回り、娘は「それってがんだよ。」と大粒の涙をポロポロと流しました。そんな2人の姿に胸が張り裂けそうになり、「もう二度と家族を泣かせない。必ず元気になってみせる!」と強く心に誓いました。こうして私たち家族の長い闘病が始まりました。

入院後すぐ寛解維持療法が始まりました。第1クール終了後、移植施設に行き、骨髓バンクの患者登録を行い、移植について詳しく説明を受けました。

『5年生存率』『合併症』『GVHD』『再発』『二次がん』

耳を塞ぎたくなるような現実がそこにあり、自分が受ける治療の厳しさに初めて『死』を意識しました。そんな中、幸いにも5名のドナー候補の方が見つかり、4名の方がコーディネートに進んでくださいました。選定ドナーさんは最終同意と採取前健診を終わられたのですが、ある理由でキャンセルとなりました。すぐに2番目のドナーさんがコーディネートを再開し、順調に進んでくださったお陰で、1ヶ月だけの遅れで移植の日を迎える事ができました。

Day0。大きな輸血バッグに入ったドナーさんの骨髓液はずっしりと重く、今もその感触は忘れられません。家族が見守る中、輸注は14時から19時まで続けました。大きな感謝と『生』への希望、そして『死』への不安が入り混じる気持ちで、ずっと真っ赤な骨髓液を見ていました。主治医が最後の一滴まで無駄にしないよう絞り出してくださり、

ドナーさんの“いのちのバトン

“をしっかりと受け取ることができました。その後はGVHDと闘いながら、Day17に無事生着し、それと共に少しずつ症状は和らいでいきました。造血状態も日に日に上向き、Day47に退院できました。家に帰っても闘いは続きました。完璧な感染対策や厳しい食事制限。何よりもつらかったのは、体力と筋力が著しく低下した事でした。立ち上がる事すらままならず、歩くのもヨチヨチ。まるで赤ちゃん。本当に生まれ変わったんだとつくづく思いました。そんな大変な中でも、家族との『当たり前』の日常に戻れた事は、何にも変え難い喜びでした。

退院後の日常生活でリハビリを重ね、少しずつ体力は回復していきました。元氣になればなるほど、ドナーさんへの感謝の気持ちは大きくなり、「ドナーさんへ恩返しをしたい」という思いが強くなりました。そして、神奈川骨髓移植を考える会に入会し、ドナー登録説明員として活動を始めました。この会との出会いが第2の人生のスタートであり、今の私の土台となっています。そして私にはもう一つ、骨髓バンクコーディネーターになるという夢がありました。元患者の私にそれが許されるのか不安を抱えながら応募したところ、骨髓バンクからチャンスをもらい、2020年にコーディネーターになる事ができました。まだまだ未熟で難しい事も多々ありますが、とてもやりがいを感じています。

支えられた側から支える側へ。これからも出身地の滋賀で、ドナー登録説明員とドナーコーディネーターとして、移植を待つ患者さんのために、感謝と敬意を持って活動を続けていきます。それが、私に『生きるチャンス』が与えられた意味だと思えるのです。



日本骨髓バンクの登録患者と検査済登録ドナー (令和4年5月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	538,501	68,763	64,331
4-5月登録分	5,728	847	359
4-5月抹消数	5,049	643	—
実質登録増	679	204	—

患者とドナー登録・適合状況(5月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	893,179人
ドナー登録抹消者数(累計)	354,678人
HLA適合報告ドナー数(累計)	356,811人
実質登録患者実数(現在)	1,757人(国内1,237人)
HLA適合患者数(累計)	51,234人(患者累計数の79.6%)
非血縁移植実施数	26,679例(4-5月実施176例)

骨髄提供を経験して

宮本 晋吾

Message from Donor

私が骨髄提供について連絡を頂いたのは、まだコロナ前の春のことだったと記憶しています。骨髄バンクから封筒が届き、まさかと思いながら封を開けて読んでみるとドナー適合したとのことでした。地域活動の一環で献血は定期的に行っていたので、その際に骨髄バンクへの登録もしたように思います。あまり深く考えて登録したわけではないですが、いざドナー適合の通知が届くと、まあそんなこともあるか、というくらいの感覚でした。

私は医療機関に勤務していることもあり、誰かの助けになれるならという気持ちと、実際どんなことをするのかという興味もあり、やってみようと思いました。

家に帰り妻に話をすると、「あなたがやりたいならいいんじゃない」というような感じでした。届いた通知には、適合する何人かのうちの1人なので実際に提供する段階まで行くかどうかは分からないという文言があったこともあり、そこまで深く考えることなく提供する意思がある旨を返信しました。

そこから、時間をかけながら話が進んでいき、骨髄バンクの担当の方とお会いしお話を伺ったり、病院での検査を受けたりしました。お話を伺っていくと、今後も検査や入院したりと仕事も休む必要が出てくるとのことでした。仕事での立場上、それなりに忙しい状況でしたが、勤め先に相談する中で同じ職員でも過去にドナー提供したことがある人があるなど快く賛同していただきました。

そして時間が経ち、忘れたところにドナーに決まった旨の通知が届きました。驚きもありましたが、気持ちは最初から変わらなかったこともあり、家族や職場にも話したうえで提供する意思を返信しました。

家族が心配を口にするようになったのは、家族の同意書を書く時でした。ドナー提供するリスクについて等、自分で調べたり説明を受ける中で不安が募ったようでした。私自身は、骨髄提供することで誰か助かるなら、という気持ちが先立ち、あまりリスクについて不安に思うことはありませんでしたが、家族の立場では違うようでした。私の気持ちを話して同意書には署名をしてくれましたが、家族は最後まで不安だったようです。今振り返れば、自分勝手だったかと思いますが、ここはもう少し時間をかけて家族と話しても良かったのかなと反省しています。

骨髄提供で入院したのは、夏も終わりの頃でした。期間は1週間弱だったかと思います。入院期間中は、やることもなかったように思います。特に病気で入院しているわ

けでもないのに、病棟スタッフが頻繁に部屋に来られることもなかったですし、こちらも仕事の邪魔をしないように遠慮していたように思います。普段は忙しくしているので、この機会に見たかったDVDをずっと見ていました。採取当日もあまり恐怖などはなく、むしろ病院の手術室に入って、どのような設備なのかに興味がいっていたように思います。手術台で麻酔をかけられ、目覚めると病室のベッドで寝ており、妻がそばにいてくれました。私が目覚めてからの第一声は、「肩こりがいい」だったそうです。



入院中は、病院の方に大変よくしていただきました。医療従事者に対する信頼感というものを感ずることが出来たように思います。退院後も特に痛みなどもなく、生活に支障は全くありませんでした。周りは心配していましたが、私個人は心配しすぎくらいな感覚でした。今から思えばもう少し人の気持ちが分からないといけなかったかなと思います。

ドナー提供してから何年か経ちましたが、その後の生活に影響は全くありません。ドナー提供した患者さんからはお手紙を頂き、無事に提供を受けることが出来た旨、そして感謝の言葉を頂きました。ありがたいことです。

今回のことで、私自身が何か大きなことをしたようには思っていません。骨髄バンク関係者の皆様、病院スタッフをはじめとする医療関係者の皆様など多くの皆様のご尽力でこの骨髄バンク事業が成り立っていることを実感しています。もちろん、その中の一人として私もお役に立つことが出来たと思います。一緒に骨髄提供に関われたことに感謝しています。

最後に、今回、骨髄提供を行う上で、私自身、最後まで不安を感じることはありませんでした。普段から医療の世界で仕事しているので、医療従事者に対して信頼感があるからかもしれません。また、ドナー提供をしていくうえでは、家庭や仕事の理解が必要となってきます。その点では私は幸運な方だったかもしれません。ただ、このドナー提供自体、そんなに難易度が高いものとも思いませんでした。

簡単ではありますが、以上が私の骨髄提供を経験しての感想です。つたない内容ですが、これから骨髄提供をするかどうか考えておられる方の参考になれば幸いです。

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2022.4.16~6.15)

佐野啓子さん 2,000円／佐藤昭さん 5,000円／山本栄さん 7,000円／小山内直樹さん 2,000円
岸康彦さん 17,000円／若林秀子さん 10,000円／坂本孝子さん 20,000円／おざわりさん 5,000円
入倉延利さん 5,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

〈募金箱〉

神田味処「味彩」石川潤さん 7,533円／港区白金台「ヴァンティアン美容室」高橋友三郎さん 6,863円
松崎内科クリニック 松崎道男さん 20,959円



▼この原稿を書いている6月半ばの時点では、都内の新型コロナウィルス新規感染者数は前週比マイナスが続いており、重症患者も減少していることから、ようやく落ち着いてきた状況にあると思われます。様々な社会的規制も徐々に緩和されつつあり、予断は許されませんが、コロナ禍前の日常が少しずつ戻ってくるのが期待されます。

▼6月25日には東京の会の総会が開催されますが、今回は会場への参加とリモート参加を組み合わせ、総会後にはドナー経験者による講演会や懇親会も行うことになりました。今後はドナー登録推進活動に加えて、骨髄バンクの普及啓発活動や医療講演会など、コロナ禍で停滞していた活動を徐々に活発化していきたいと思います。

▼今月号の記事でも紹介した「全国骨髄バンクボランティアの集い」では、患者家族の田中浩章さんが、講演のなかで「骨髄提供の3つの壁」として「知る壁」「登録する壁」「提供する壁」をあげました。「知る壁」として、2021年の調査で約4人に一人が「骨髄バンクを知らない」と答え、2017年の調査との比較で20%近く増えたことが報告され、私自身も衝撃を受けました。

▼「登録する壁」では、コロナ禍の影響で2020・2021度は2019年度に比較して新規ドナー登録者数が半減したこと、ドナー登録対象者のうち実際の登録者は約1%にとどまっていること、ドナー登録者のポリュー

ムゾーンが40代から50代前半になっている一方で、提供者の約6割が20代から30代であり、若年層のドナー登録拡大が重要であることを指摘されました。

▼「提供する壁」では、骨髄移植希望者のうち実際に移植を受けられる患者は約半数にとどまっていること、最初に連絡する10人のドナー候補者のうち回答が返ってくるのが2、3人であること、健康以外の理由で提供できない割合が約6割で、うち「連絡つかず」が約3割、「都合つかず」が約4割に上っていることを報告されました。

▼これらの課題は私たちボランティアも認識していますが、ドナーが見つからない患者の家族の方から指摘されると、その切実さや重要性が改めて伝わってきます。田中さんは、息子を助けたいという動機から出発しながら、骨髄バンクを取り巻く状況や社会に目を向けて、様々な活動や提案を行っており、ボランティアの立場からも今後の活動のヒントを多くいただいたと感じています。

▼田中さんの講演の後のパネルディスカッションでは、ドナーの権利擁護のあまり「いつでも断っていい」と何度も言われるコーディネートのあり方や、患者とドナーの対面禁止など、ボランティアが以前から提起している課題が、ドナー経験者や患者家族の立場からも出されました。

▼ドナーは「いのちを救いたい」「誰かの役に立ちたい」、患者は「いのちを救ってほしい」「ドナーに感謝を伝えたい」、その気持ちを伝えあうこと、そしてそれを社会に広めていくことが、ドナー登録や提供の促進にもつながるのではないのでしょうか。私たちボランティアももう一度原点に返って、活動を進めていきたいと思います。(S)

9月会報発送 「おりおり」のお知らせ

日時：2022年9月4日(日) 14時00分より

※発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。

※最新情報を東京の会ホームページ等でご確認の上、お越しください。

場所：全国協議会事務所(千代田区東神田1-3-4 KTビル3階)

交通：都営新宿線「馬喰横山」駅 徒歩5分

都営浅草線「東日本橋」駅 徒歩7分

東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 徒歩7分

JR総武快速線「馬喰町」駅 徒歩5分

※11月「おりおり」予定 2022年11月6日(日) 14時00分より

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入し発送します。どなたでもご参加いただけますが、必ずマスク着用の上、患者さんや元患者さん、持病のある方やご年配者など、感染リスクの高い方はご無理のないようお願い致します。なお、状況により発送作業を中止する場合は、メーリングリストやホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。